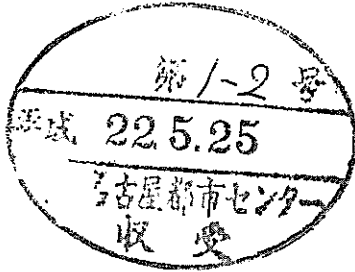


第1号様式（一部公開）

平成22年 5月25日

（あて先）

財団法人名古屋都市整備公社理事長



申請者

所在地	
公開 名称	MOMS. (ママズ)
代表者	

まちづくり活動助成申請書

当団体のまちづくり活動について、名古屋都市センターまちづくり活動助成金交付要綱による助成を受けたいので、下記のとおり申請します。

記

1 助成を受けようとする部門（該当部門を○で囲んで下さい）

○・地域“魅力”アップ部門 ・ “はじめの一步”部門

2 団体の活動について **公開**

審査基準⑤ 活動実績 と主体性	・提案内容につながる地域での活動実績を有しているか (団体の概要、活動紹介、これまでの活動成果等をご記入ください。) ・具体的にどんな熱意を注いでいるか
※「はじめの一步部門」は審査の対象とはしません。 ※参考資料として活動に関するチラシやリーフレットなどを添付することができます。 この場合、公正を期するため、A4判3枚(両面)までを限度とさせていただきます。 団体の概要、活動紹介、これまでの活動成果等を上記観点からご記入下さい。	
昨今の子育て環境の変化により、育児に関する様々な問題が生じてきました。 ・核家族が中心となり、子育てに関する文化(=ノウハウ)が伝承されなくなった。 これにより若い親が親になりきれず、子どもの発達を理解できなくなった。 (子どもを物のように扱う) ・地域のコミュニティが崩壊し孤立・密室化した子育てをする人が増えてきた。 ・乳児を抱えた親子の孤立感、親の育児ストレスの増大などが顕在化・深刻化してきた。	
働く親のためには子どもを預かる施設として保育園があり、3歳以上の子どもたちには幼稚園がありますが、0～3歳までの子どもを持つ専業主婦の家庭に対しての支援は、とても少ない状況にあります。これが核家族の進行で、地域に頼る手立てを失った育児中の専業主婦の孤立や不安を増長する結果を生み出しました。現に当地域には、児童館がひとつもなく、日中親子で集まれる場は公開しかありません。	
そこで私たちは行政が提供する支援を補いながら、またお互い協力しながら新しい支援の形を開拓していきたいと考えます。子育て世代のネットワークを形成し、助け合いができる関係を作り直しながら、地域の子育て力を向上させ、「楽しく育てる」「みんなで育てる」まちづくりの一環としての子育て支援活動を進めていきます。	
昨年(初年度)の活動成果については、別紙1参照。	

平成22年5月25日

まちづくり活動助成「地域“魅力”アップ部門・“はじめての一步”部門」
まちづくり活動提案書

1 助成を受けようとするまちづくり活動の提案について

提案名	子育てママが地域をつくる ～まちづくりの一環としての「楽しく育てる」「みんなで育てる」 子育て応援活動～		
団体名	moms. (ママズ)		
提案の活動を行う地域	主に名古屋市西区 山田・中小田井・平田・浮野学区		
提案の内容	<p><u>1. 子どもとママの交流会「ふぁんたいむ」の開催</u> 月1回、親子が集まり、一緒に遊び、交流する場を提供。その中で、お互いの理解を深めること、周りの子どもも見守る目を養うことを目的とする。</p> <p><u>2. 子どものための・ママのための・親子のための「講座」開催</u> 親子のふれあい、遊び方、ママの学ぶ機会、リフレッシュする機会など、目的を持った単発講座を月1回開催。</p> <p><u>3. 「継続講座」の開催</u> 親子が気軽に取り組めるよう、低料金のお稽古事を開催。 子育て中のママ講師も起用。前期（4～7月）10回 後期（10月～12月）8回</p> <p><u>4. 不定期「イベント」の開催</u> ・夏休みに「おてて絵本」体験会を開催…親子のふれあい遊びの普及と普段の活動に参加できない、幼稚園児・小学生親子との交流を図る。 ・秋～冬に「コンサート」開催…子育て中の親子に癒しの場を提供。 地域の女性会・老人会にも参加を呼びかけ、子育て世代との相互交流を図る。</p> <p><u>5. 「託児」ボランティアの育成・運営</u> 核家族の親が講座に参加しやすい環境にすべく、託児付の講座を開催できるよう、託児ボランティアグループを運営。 ボランティア（有償）の方には安心してお仕事をさせていただけるよう、育成講習を実施（年1回）。</p> <p><u>6. 「広報」活動</u> moms. の活動を広くお知らせするため、地域の子育て情報を発信するためホームページを開設。 また、活動内容を記載したリーフレットを作成し、地域に配布する。</p>		
活動期間	平成22年4月～平成23年3月	助成金交付申請額	50万円

2 提案内容について

「1 提案の内容」について、以下の4つの視点で具体的に活動内容をご記入ください。

- | | |
|--------------|---|
| 審査基準①
必要性 | <ul style="list-style-type: none">・地域に根ざしたまちづくり活動内容が・自分たちの住んでいる地域を住みよい環境にする活動が・地域との連携や協力が得られる活動が・活動メンバーのみの趣味活動や仲間づくりではなく多くの人に理解や共感が得られる活動が |
|--------------|---|

(提案活動の必要性について上記観点から簡潔に分かり易くご記入下さい。)

※過去の助成を受けた団体は、その活動助成の成果も踏まえて記入下さい。

◎ 昨年の活動で把握した必要性

「赤ちゃん広場」(0歳児を持つ母親達のニーズを把握する目的で3日間開催)でのヒアリングとアンケートからわかったこと。

- ・赤ちゃんを連れて出かけるところが少なく困っている
- ・目的をもったイベントや講座をやってほしい
- ・仲間づくりをする場がほしい

◎ 地域の特色に伴う必要性

- ・転勤による転入者が多く、知り合いのいない土地での子育てに、不安と孤独を感じている人が多いこと
- ・若い世代の多くが核家族であることから、子育て世代間のつながりはもちろん、地域とのつながりが希薄なものとなっていること
- ・庄内川以北の、未就園児が非常に多い地域にもかかわらず、行政の支援機関が川の南に集中していて使い勝手がよくないこと

- | | |
|--------------|---|
| 審査基準②
独創性 | <ul style="list-style-type: none">・創意工夫にあふれた活動か・地域性を活かした個性豊かな活動か・新しい視点やアイデアがあるか |
|--------------|---|

(提案活動の独創性について上記観点から簡潔に分かりやすくご記入下さい。)

◎ 活動全般において

- ・子育て中の親が「支援者」となるスタイル

自分達が経験したばかりのことなので、記憶が新しいこと。また比較的年齢が近いので、情報を入手しやすい。このことを活用して、子育てにおける後輩達に子育て文化を継承し、また気軽に相談できる雰囲気づくりを行なう。

・みんなでみんなの子どもを見守る目を養い、地域ぐるみで子どもを育てる意識を高めていく。これにより、支援者も支援を受ける者も、子育てをしやすいまちづくりのために努力するもの同士という感覚を築いていく。子育て中の親も、自らの子育てをしている環境を変えていくことができる、まちづくりの担い手となる。

◎ 講座において

- ・資格や能力のある親には、今後の活動に向けてチャレンジする機会を創出し応援。受講者には低価格で講座を提供する。

◎ 託児において

- ・子の預け先がない子育て世代が学ぶ機会を得るために、また、自分時間を楽しみ今後の生き方探しをするために託児付講座を開催。
- ・子育て世代が互いに支えあうために、子ども同伴託児(自分の子供を連れて託児スタッフとして参加)を可能に。

審査基準③ 実現性 ・提案内容が具体的にしているか ・予算は妥当か						
時期	活動内容					
	1 ふぁんたいむ	2 講座	3 継続講座	4 イベント	5 託児	6 広報
平成22年4月			前期10回			
5月	第1回	第1回	↓			
6月	第2回	第2回				
7月	第3回	第3回				
8月				おてて絵本		
9月	第4回	第4回	後期体験会		託児付講座開始	
10月	第5回	第5回	後期8回		↓	
11月	第6回	第6回	↓	コンサート		
12月	第7回	第7回				
平成23年1月	第8回	第8回			↓	
2月			体験会		達成講座	
3月						↓
審査基準④ 発展性 ・今後の活動の発展にむけての視点や計画があるか ・助成後に地域まちづくり活動への波及効果があるか						
(提案活動の発展性について上記観点から簡潔に分かりやすくご記入下さい。)						
◎3ステップ「①集う」→「②つなぐ」→「③育む」						
①「楽しく育てる」、「みんなで育てる」子育ての第一段階として、今年度は集える場所の提供に重点をおいた活動を進める。相互理解を深め、見守る目を養いながら、子育て世代の仲間づくりを勧める。						
②「集う」場所が定着後は、人と人、人と地域のつながりが持てるための働きかけをしていく。 ・子育て世代同士をつなぐ ・子育て世代と他の世代をつなぐ ・子育てに関心を持つ人たちをつなぐ						
③最終段階は、つながった関係を互いに支えあう関係に育み、より住みよい環境づくりへと発展させていく。 ・託児スタッフの年齢層の充実 ・地域の子どもがお年寄りを思いやり、お年寄りが子どもを見守り育む環境 ・地域に支えられた子育て世代が、次の世代を支える側になり得る環境						

※ 第2号様式は、3ページ以内でご記入ください。

※ 用紙の大きさは、日本工業規格 A4 とします。